

平成21年度

農業振興公社ニュース

第7号

宮崎県新規就農相談会を実施しました

平成21年10月25日の日曜日、県庁南側にある職員健康プラザにおいて、宮崎県新規就農相談会を開催しました。この相談会は、本気で農業を始めたいという方に対し各ブースごとに具体的な相談を受けアドバイスする催しです。

当日は、あいにくの雨にもかかわらず64名の方が訪れ、農業全般にわたる相談はもちろん農業法人、JAグループ、実践塾、先進農家、農地相談などの各ブースを精力的に回り、熱心に情報収集・意見交換されていました。



相談会受付状況



総合・就農相談窓口にて

総合相談コーナーは、就農全般に関わるブースです。ここでは、宮崎農業の現状、就農に当たっての手順・留意事項、資金などの支援措置のほか、新規就農にかかる一般的な事項を説明しました。また、相談者はいろいろな夢、希望をお持ちである反面、これまでの経歴、家庭の事情、就農に向け準備された状況など個々に異なるため、お話を聞きながらその人に合った方向をともに考え、提案

しました。また関係するブースを積極的に訪問されるようアドバイスしました。

次は、農業法人の就職相談コーナーです。今回、参加された農業法人は11社。宮崎、北諸、西諸、児湯の各地から参集され、露地野菜、施設野菜、果樹など現在栽培している作物や会社の業務内容、採用計画等を具体的に説明されていました。就職希望者からは、業務の種類、雇用条件等を聞くとともに、その場を利用して早速面接の場に切り替える動きも数多くありました。



関係機関の窓口にて

最後にJA、宮崎市、農業実践塾、農地情報、先進農家等のコーナーです。農業は、技術・経験を積むための研修から、その次の就農計画づくり、農地の確保・資金の手当て、そして就農した後も関係機関や先輩農家からのサポートが必要で、通常は、個別に関係機関を訪ね、相談しますが、今回10の機関・団体が参加しましたので、一度に多くの情報を得、準備に役立つたとの声がたくさん聞かれました。また、相談を通して今後の支援を話し合った方々もいたようです。

社会環境の変化にともない、農業をめざす人は増える傾向にあります。でも、農業を始めるといふことは、農村社会の中で地域に溶け込み、社会の一員として深く長く付き合うことを意味します。相談会は、就農希望者を支援する場として力を発揮するとともに、本来の宮崎農業・農村を支える人づくりの舞台となるよう、さらに工夫・努力して参りたいと思っております
(担い手支援課)



平成二十一年度「公社友の会」 の県外視察研修を実施

公社友の会では、十一月十九日から二十日の二日間、熊本県・佐賀県両県で先進地視察研修を行った。

十九日は農事組合法人「日進温室組合」（熊本県八代市、田辺正宜組合長）の研修。トマト、メロン、サラダ野菜、花苗ハーブ加工品で年間約四億円を売り上げている。田辺組合長は戦前からの農友会実習所松田農場を引継ぎ、松田喜一先生の実践・実学主義を貫く経営者として全国各地での講演・指導活動を行っている。

奥さんの田辺美代子氏（農業委員）は、女性八名のスタッフと共にハーブ苗と花苗を生産。年間六千七百万円の売上げ、農林大臣賞四回、県知事賞一回を受賞。女性を活かす農業、農業女性の地位確保、農業女性のフアッション化時代等生き生きと輝いて働く農業女性の姿は顔の見える農業の原点であると話す。

今回の研修に参加された友の会会員の中で、二名の方が昭和二十二年と昭和四十六年に松田農場に入所されていたということもあり非常に感動を覚えたすばらしい研

修（全員の感想）であった。

二十日は中村集落営農組合（佐賀市東与賀町、富吉信行組合長）の研修。当組合は、全戸（33戸）加入による共同作業を行い、米・麦・大豆のプロックローテーションを実施。当初三十三台あったコンバインが現在は七台に減少している。集落営農により集落全体のまとまりが良くなり、今後より一層の集約化を図って行きたいとのことであった。

本県に於けるこれからの集落営農を考える上で参考になった研修であった。

（農地課）



日進温室組合研修（松田喜一先生銅像前にて）

「農地保有合理化事業」を 活用して新事業を展開

大山食品株式会社
代表 大山憲一郎さん

大山食品株式会社は、昭和5年に国富町で創業され、昭和47年の法人化に合わせ工場を綾町内に移転し操業されています。生産の主力はカメ仕込みの黒酢で、併せて黒酢飲料の生産販売もされています。

また、黒酢の生産が暇になる冬の労働力活用としてこんにやくの生産も手がけておられます。



カメ仕込みによる黒酢生産

このような中、国富町が国の構造改革特区の認定を受けた事を受けて国富町法華岳において「どぶろく」の生産を計画されました。特区の条件として、原料の米は自家生産を行う必要があるため、大

山社長は基盤となる農地取得の手段として、当公社が扱っている「農地保有合理化事業」を活用されました。平成19年以來約50aを活用されており、現在は一次貸し付け中ですが、貸し付け日から5年後には購入する計画です。

大山社長はどぶろく用の米の他豆腐原料の大豆や法華岳で営業しているレストランで提供している自然食ランチの食材の全てを自家生産される計画と聞いておりますので、本業の食品生産と併せて農業生産の規模拡大も期待される所です。

大山氏の合理化事業の活用実績

- ・平成19年度 19a(田)
- ・平成20年度 19a(田)
- ・平成21年度 12a(畑)

（農地課）



発酵段階のどぶろく

畜産担い手育成総合整備 事業を活用して増頭!

和牛繁殖経営
牛田朝大さん(59)
児湯郡木城町

牛田さんは、後継者が後継ぎを
考え就農したいという気持ちを知
り、増頭を考えられたのですが、
既存の牛舎では計画の実行は難し
いと判断されていました。

畜舎を増設したくても現在の畜
舎は住宅地の中に在ることから、
現地での計画の実行は大変難しい
状況でした。

そこで、平成二十年頃から事業
が採択となりました。「西都・
児湯地区畜産担い手育成総合整備
事業」に参加を決定され、畜舎の
移転と増頭を行うこととなったそ
うです。事業の内容ですが、繁殖
牛舎(一三五二㎡、80頭規模)、
堆肥舎(一九二㎡)、飼料庫(一
五〇㎡)、看視舎(二一・六㎡)
を整備され、平成二十一年七月に
引き渡しが完了しております。

ここで、後継者である光二さん
さん(22才)について少し書いてみ
ます。光二さんは、幼いころよ
り両親の仕事を見て育ち、自分も
牛を飼いたいと思っていたそう
で、中学校卒業後は高鍋農業高校の畜

産課、宮崎県立農業大学校へと進
学され、卒業後は両親と祖父と共
に牛の世話をされております。

将来の夢は、JA西都畜産課に
勤務されているお兄さんと相談し
ながら、子牛の品質向上、肥育と
一貫経営を目指したいと話されて
いました。

現在は、お母さんと祖父ととも
に毎日の飼養管理を行っており、
飼料の作付けや収穫については両
親をはじめ祖父、兄と家族全員で
行っているそうです。

一日でも早く、立派な後継者に
なられることを祈っております。

(畜産施設課)



整備された繁殖牛舎

株式会社「宮崎太陽農園」 が設立されました

農業種からの農業参入を推進す
るため、県が本年度の六月に予算
化した「宮崎発・大地を活かす農
商工連携ビジネスモデル創出事業
」の支援第一号となります。

ソフトウエアなどの開発を行っ
ているIT企業の株式会社「シー
イーシー」と有限会社「奥松農
園」が共同で出資して、「宮崎太
陽農園」を本年九月に設立しまし
た。

宮崎市の住吉北部地区に二、八
ヘクタールのミニトマトのビニ
ルハウス団地を建設して、約20人
の雇用を新たに創出し、年間の出
荷量一七五ト、販売額一億四千万
円を目標としています。



事業内容を知事に報告する関係者

「シーイーシー」は県の誘致企
業として、都城市にソフトウエア
の開発やサービスを行う事業所を
既に開設しており、「奥松農園」
は宮崎空港などで販売されている
糖度の高いトマト「太陽美人」を
販売している農業生産法人です。

「宮崎太陽農園」では効率的な
生産体制の確立を固めるため、奥松
氏が培った栽培技術や労務管理な
どの情報を、シーイーシーがシス
テム化するなど情報技術(IIT)
と農業生産のノウハウを結合させ
て、先進的なハウストマトの経営
を目標することとなっています。

「宮崎発・大地を活かす農商工連
携ビジネスモデル創出事業」は農
業へ参入したい企業と、本県の農
業法人や農業団体がパートナー
となつて、農商工連携のビジネス
モデルをつくり、本県の農業と地
域経済の活性化を図ろうとする取
り組みを支援する事業です。

施設整備には県から原則10%
(国の補助がない場合は最大20%
まで)の助成をする他、新規に雇
用者が増加する場合や、地元で農
地を集積するときに定額を補助す
る事業内容となっています。

(新農業支援課)



経営体育成基盤整備事業 「小山田地区」の竣工式が 開催される

県が平成一三年度から整備を進めていた経営体育成基盤整備事業「小山田地区」(宮崎市高岡町)が平成二十年度をもって完了したことを受け、水士里ネット高岡町(旧小山田土地改良区(黒木辰男理事長))と、宮崎県中部農林振興局との共催により、去る十一月二四日午前十時三十分より、関係者80名の出席の下、竣工記念式典が開催されました。

式典ではまず現地において、厳かに神事が執り行われ、黒木辰男理事長他五名による竣工記念碑の除幕に引き続き事業関係者並びに来賓の方々により玉串が奉奠されました。

その後、会場を小山田公民館に移し宮崎県中部農林振興局主催による竣工記念式典では、後藤田中部農林振興局長の式辞に引き続き、井上中部農林振興局農地整備課長より事業の概要及び経過報告が行われました。

農業振興公社は、平成十四年度から工事を受注し、地区内約二六ヘクタールの区画整理工事の全てを施工させて頂きました。工事期間中は地元土地改良区の皆様や中

部農林振興局及び宮崎市役所を始め関係機関の御指導・御協力によりまして工事を完遂できました事に深く感謝申し上げます。

高岡町土地改良区におかれましては、整備されました大区画の農地で収益性の高い営農が展開され、小山田地区がますます発展されることをお祈りいたします。

【地区の概要】

○受益面積	43, 2ha
内 整 地 工	26, 4ha
○道 路 工	7, 786m
○用水路工	9, 467m
○排水路工	5, 502m
○工 期	平成13年度(
	平成20年度
○事業費	715百万円

(農地課)



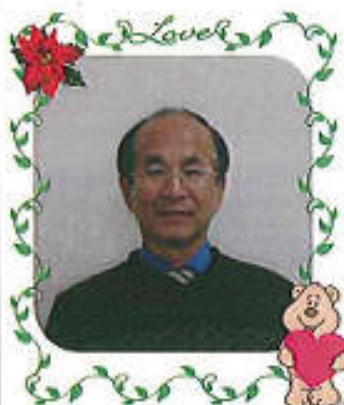
建立された竣工記念碑

就農に向けて 頑張るあなたを支援します

新規就農を考えているあなたに強い味方ができました。これから就農しようとするあなたを支援するため公社では21年度より、清武勝氏に就農コーディネーターとして活躍して貰っています。

清武氏は北諸県農業改良普及センター所長を最後に県を退職されていましたが、「これまでの経験をいかしては」との公社の強い要望により就任していただきました。現在は県外、県内における就農相談会に参加され、宮崎県に新規就農を希望している相談者の様々な要望に応えるために活躍されています。就農相談だけでなく、法人就農(無料職業紹介)、研修助成、農家経営継承等についても相談に乗りますので、是非ご連絡ください。

(担い手支援課就農相談室)



《12月～2月の主な行事》

- 1/13(水) 農地保有合理化法人九州・沖縄連絡会議(諫早市)
- 1/15(金) 農地保有合理化法人事業推進連絡協議会(AZM)
- 1/23(土) 新農業人フェア(東京)
- 2月上旬 冬のみやざき就職フェア(県内5箇所)
- 2/20(土) 新農業人フェア(大阪)
- 2月下旬 新農業人フェア(宮崎版)
- 2月下旬 公社友の会役員会(公社)

発行 宮崎県農業振興公社

宮崎市恒久二丁目七番地十四

TEL(〇九八五)五一一二〇一一

FAX(〇九八五)五一一八〇〇六

HP <http://www.mnk.or.jp>